

第5分科会	造形活動でつながる	学年	全校児童
提案者	高崎市立岩鼻小学校 齊田 弘子		



テーマ 「6年生を送るウォールアート展」

1 はじめに

各地で新型コロナウイルスが猛威を振っている。その影響は学校現場においても大きな影響を及ぼし、今まで当たり前に行ってきた様々な学習活動が制限されることとなった。子供たちが楽しみにしている行事も軒並み中止を迫られ、毎年恒例で行われている「6年生を送る会」もいつもと同じように開催することができなくなってしまった。それでも、お世話になった6年生に感謝の気持ちを表して、卒業をお祝いしたいという下級生の思いと、学校や先生方への感謝、上級生から受け取った岩鼻小の歴史のバトンを下級生へと引き継ぎたいという6年生の思いをなんとか表現することはできないかと考えた。例年の送る会では、音楽で感謝の気持ちを表現していた。そこで昨年度は図工での表現にチャレンジしようと「6年生を送るウォールアート展」を設定し、これまでの図工の学習で身に付けた自分の思いを絵や立体、工作に表す力を活用して、下級生と6年生をつなごうと考えた。

2 実践の概要

(1) 題材の内容

本題材では、本校を卒業する6年生への感謝の気持ちと祝福の気持ちを表すウォールアートを各学年で協力して作成する。各学年でテーマを決め、一人一人が各々の思いを表現し、共同製作で作品として形に表す。6年生は学校への感謝を表す作品づくりをする。一定期間廊下に展示し、お互いの作品を見合う。また、卒業式の会場にも展示することで、地域や保護者へのつながりも意識した。

(2) 目標及び評価規準

目標 6年生への感謝と祝福の気持ちを表すウォールアートの製作を通して、自分だけではなく、皆の作品がよりよくなるように、自分の思いを工夫して表す。

評価規準

[知識及び技能]

自分だけではなく、みんなで作る作品がよりよくなるように、表現を工夫している。

[思考力、判断力、表現力等]

自分の思いを表現し、見る人を楽しませるために、形や色などを考えている。

[学びに向かう力、人間性等]

ウォールアートの製作を楽しみながら、作り出す喜びを味わい、活動に取り組もうとしている。

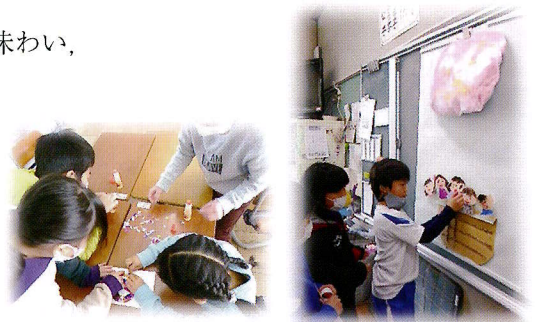
(3) 学習計画

- ①学年でテーマを決める
- ②自分の思いを表現したパーツをつくる
- ③それぞれが作ったパーツを構成し、作品を仕上げる。
- ④図書室前の廊下に展示し、各学年の作品を見合う。

(4) 授業の実践

<1年生「空飛ぶ気球」>

未来に羽ばたく6年生を1年生全員の笑顔を描き、空飛ぶ気球に乗せた。折り紙を使って桜の花やおめでとの言葉を1年間で上達したはさみの技能を駆使してつくった。作業を分担し、協力してつくる中で、6年生との思い出を語り合い、笑顔があふれる姿があらこちらで見られた。また、お互いの作品を褒め合う姿が見られた。



<2年生 「岩鼻桜（校章）がいつでも見守っているよ」>

子供たちにテーマを募ったところ、「桜がいい!」との声があがった。ピンク色の折り紙を桜の形に切り、みんなの文字を合わせることで、6年生へメッセージを送った。



<3年生 モチモチの木>

国語の教科書から、メッセージが6年生にピッタリだと、モチモチの木をチョイスした。

いつも心に、勇気とやさしさの美しい灯を灯し続けてほしいという思いをこめて、色の感じを考えながらキラキラ折り紙で飾った。友達の表現の良



さを見つけ、伝え合う姿が見られた。

<4年生 「それぞれのつばさで、未来へはばたけ」>

一人一人が、羽ばたく鳥をそれぞれの思いに合わせ、形や色を工夫してつくった。最初は鳥の羽と体のバランスがうまくいかなかったが、何度も作り直し、納得のいく鳥をつくり上げることができた。「空を飛んでいる風に飾りたい!」との子供たちの声から、展示方法も工夫し、モビール風になった。空飛ぶ作品の仕上がりによどの子も満足そうだった。



<5年生 「岩鼻小はいつでも6年生を応援しています」>



6年生が秋の図工展で描いた校舎の絵がとても印象的だったことから、主なモチーフを校舎とした。一人一人が書いたメッセージカードを窓に見立てた。たくさんの桜で6年生の卒業をお祝いしたいと、周りを桜の折り紙で飾った。

<6年生 「岩鼻小カルタ」>

どうしたら、岩鼻小への感謝を伝えられるか投げかけたところ、「それぞれが感じる岩鼻小のいいところやいい思い出をみんなで持ち寄って伝えたい」と意見があった。絵と言葉と両方を使って伝えるにはカルタが最適となり、「岩鼻小カルタ」の作成が決まった。子供たちはカルタをつくりながら、文字の大きさや絵の色の表現などを工夫しながら思い出話に花を咲かせ、笑

顔があふれた。



③ おわりに

[成果]

○それぞれが、「6年生への感謝」という大きなテーマをもとに、それぞれの学年のテーマに沿って考えることができた。自分の思いを表現するのは勿論のこと、自身の個人的な作品ではない、みんなで作る作品がより良くなるために、自分に何ができるのかをしっかりと考えることができた。

○作品をつくりながら、友達とお互いの作品を鑑賞しあい、対話をする中で、自分の作品の良さや友達の作品や発想の良さや多様性、こだわりの気付くことができた。また、一人一人のつくったパーツが組み合わさることで感謝の気持ちを可視化することができ、一つの大きな作品ができあがるという共同製作の経験は、一人一人にとって、新たな意味や価値をつくり出すことを実感できる良質な体験となった。子供たちにとって、造形的な見方・考え方を働かせながら、つくりだす喜びを味わうことのできる満足感の高い題材となったと考えられる。

[課題]

●コロナ禍の影響で実施した題材であるため、本年度は特別に年計に位置づけたが、次年度以降の継続の仕方が課題である。